

---

# 敦賀発電所1号炉クリアランス申請の補正に係る 対応状況及び今後の予定について

---

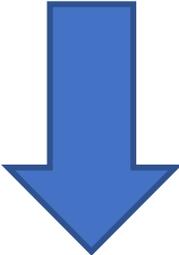
2024年1月25日  
日本原子力発電株式会社

---

# 1. 経緯 (1/2)

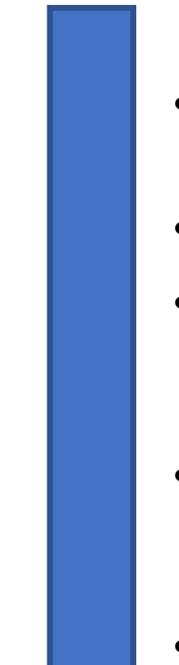
○2016年9月 敦賀発電所1号炉クリアランス認可申請書を提出

- 対象物を特定せず、**プラント全体**の運転中／解体廃棄物を対象とする考え方  
(推定重量 約2,900トン(ただし、除染により変動する可能性がある。))

- 
- 面談(計21回)、審査会合(計2回)にて次のような点のコメントを受ける。
    - 放射能濃度決定方法、測定方法における不確かさや保守性の考え方
    - 平均の考え方(算術平均と幾何平均について)
  - 2019年9月:審査基準が制定された。
    - 不確かさの考慮方法、平均値の考え方等の明確化

○2019年12月 審査基準に適合させるため、**補正に2年程度**要することを審査会合にて説明し、ご理解いただいた。

## ＜補正に向けた準備、測定・評価方法の見直し＞

- 
- 2020年1月～: **審査基準へ適合**させる方針を検討
    - 不確かさの考慮、算術平均値の採用及び測定装置による測定・評価方法の変更
  - 同年10月標準記載要領の検討に着手、同年12月審査会合で案を説明
  - 2021年1月～: **標準記載要領の敦賀発電所1号炉への適用**方針を検討
    - プラントから採取したサンプルの分析値により二次的な汚染の状況を説明し、核種を選定
    - 形状認識を取り止め、放射能濃度決定を平易な方法に変更
  - 同年4月～8月:測定装置を改修し、測定・評価方法を変更することに伴い、装置の性能確認のため標準線源と模擬試験体による試験を実施
    - バックグラウンド補正係数、放射能換算係数を設定
  - 2021年6月～10月:補正書案作成、品質保証チェックを実施

○2021年10月 補正に向けた準備がほぼ完了し、近く補正する旨を連絡

**\* NRA殿より、電事連に補正内容のレビューを受けたのちに補正するよう連絡を受けた。**

## <電事連レビュー>

・10月中旬:電事連レビュー(1回目)

- 放射能濃度確認対象物の記載充実等のコメントを受け、補正書案内容を一部修正



・11月上旬:NRA殿と面談

- 電事連レビューを踏まえた修正内容について再度レビューしてもらうようコメントを受ける。



・11月中旬:電事連レビュー(2回目)

- **放射能濃度確認対象物データの充足性**についてコメントを受け、放射能濃度確認対象物の選定、汚染調査及び評価対象核種の選定方法の再検討に着手  
「定性的なロジックによる結論ありきではなく、**対象物自体のデータを示し、そこから導かれる結論として汚染の状況を説明すること**」



・2022年2月:電事連レビュー(3回目)

- コメント対応として、放射能濃度確認対象物の汚染調査及び評価対象核種の選定方法について、対象物自体を代表するデータの充足性等の考え方が反映されているか確認し、**異論はなかった。**

○2022年5月 NRA殿コメントに基づく電事連レビュー結果より、当社は認可実績のある**先行電力殿と同様の評価手法とする以下の補正内容に変更。**

- **HCU※アキュムレータ及びN<sub>2</sub>ボンベのみ補正の対象とする。**
- 物量は当初予定の約2,900トン(ただし、除染により変動する可能性がある。)から約5トンに変更。**2023年度中を目標に補正を実施する予定であることを説明。**

## 2. 補正の準備状況及び今後の予定

### ○放射能濃度確認対象物の汚染状況調査の状況

・当初計画より、「対象物取出し、表面汚染分布調査」の着手に時間を要した。その後、「対象物取出し、表面汚染分布調査」については完了し、「サンプル採取・分析」を実施中。

### ○今後の予定

- ・引き続き、「サンプル採取・分析」を実施し、2024年度上期に完了する予定。
- ・これらの結果をもって、CL申請の補正書を作成するため、2023年度中を目標にしていた補正申請は2024年度中に延期する。

	2022年度	2023年度	2024年度
当初計画	放射化計算 対象物取出し、表面汚染分布調査 サンプル採取・分析	模擬試験 補正書作成	補正
見直し後	放射化計算 対象物取出し、表面汚染分布調査	サンプル採取・分析	模擬試験 補正書作成 補正